

「洪水警報の危険度分布」は洪水警報を補足する情報で、指定河川洪水予報の発表対象ではない中小河川（水位周知河川及びその他河川）の洪水害発生危険度の高まりの予測を示している。洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まるかを面的に確認することができ、3時間先までの流域雨量指数の予測値が洪水警報等の基準値に到達するかどうかで、危険度を5段階に判定し、色分け表示している。

平成30年7月豪雨では旭川市を流れるパーパン川で7月3日5時頃に外水氾濫（溢水）があり、浸水家屋は床下浸水5棟、田畑等浸水面積は約36haだった。溢水するおよそ6時間前の7月2日23時からの「洪水警報の危険度分布」の変化を紹介する。



パーパン川

パーパン川水位観測所

平成30年7月3日の溢水によるパーパン川浸水域  
(溢水発生時刻は概ね5時から5時30分くらい)

指定河川洪水予報

【国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。】

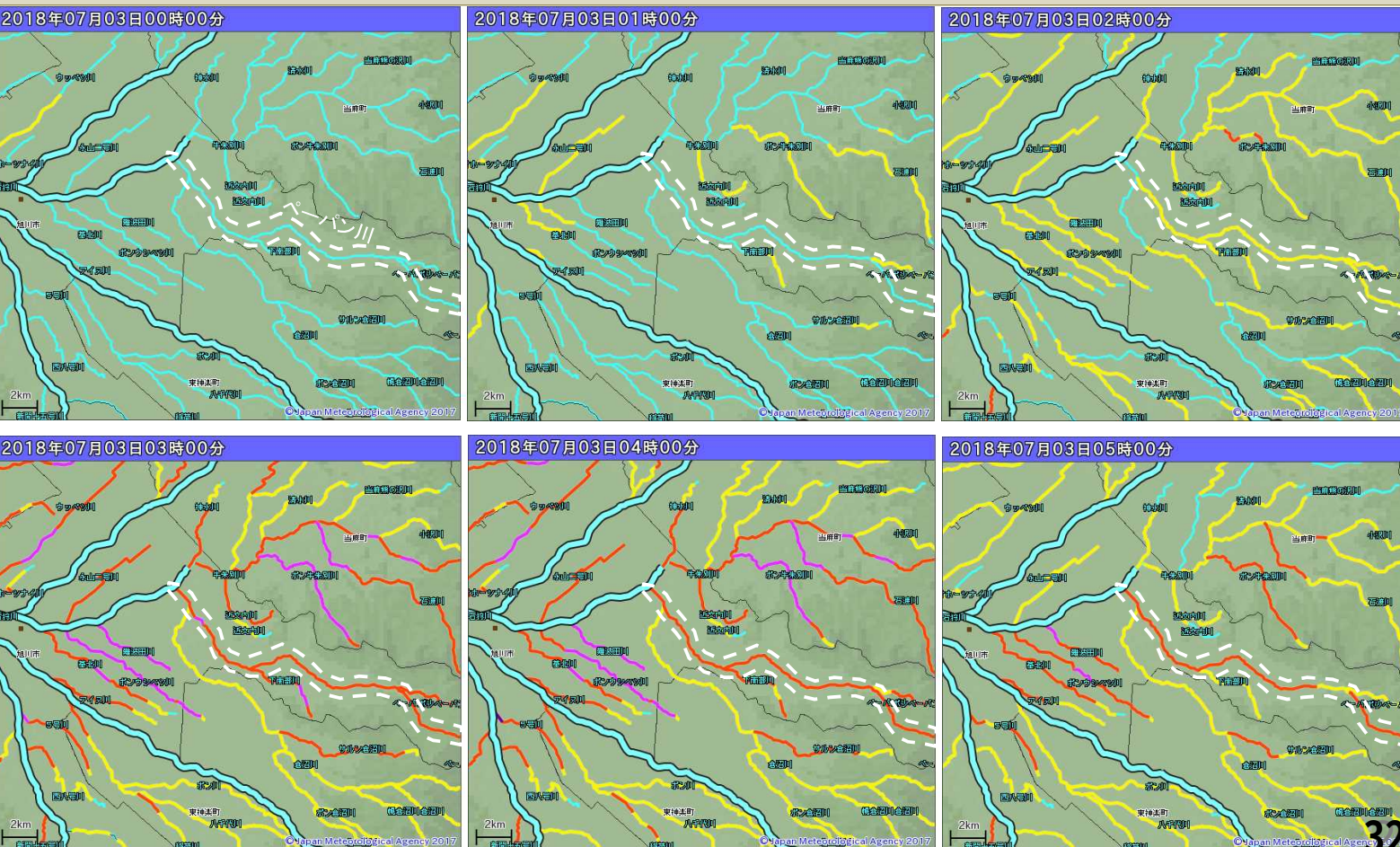
|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 高   | 氾濫発生情報                    |
| 危険度 | 氾濫危険情報(『避難勧告』相当)          |
| 低   | 氾濫警戒情報(『避難準備・高齢者等避難開始』相当) |
|     | 氾濫注意情報                    |
|     | 発表なし                      |

洪水警報の危険度分布

|     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
| 高   | 極めて危険                                |
| 危険度 | 非常に危険(氾濫注意水位等を超えていれば『避難勧告』相当)        |
| 低   | 警戒(水防団待機水位等を超えていれば『避難準備・高齢者等避難開始』相当) |
|     | 注意                                   |
|     | 今後の情報等に留意                            |

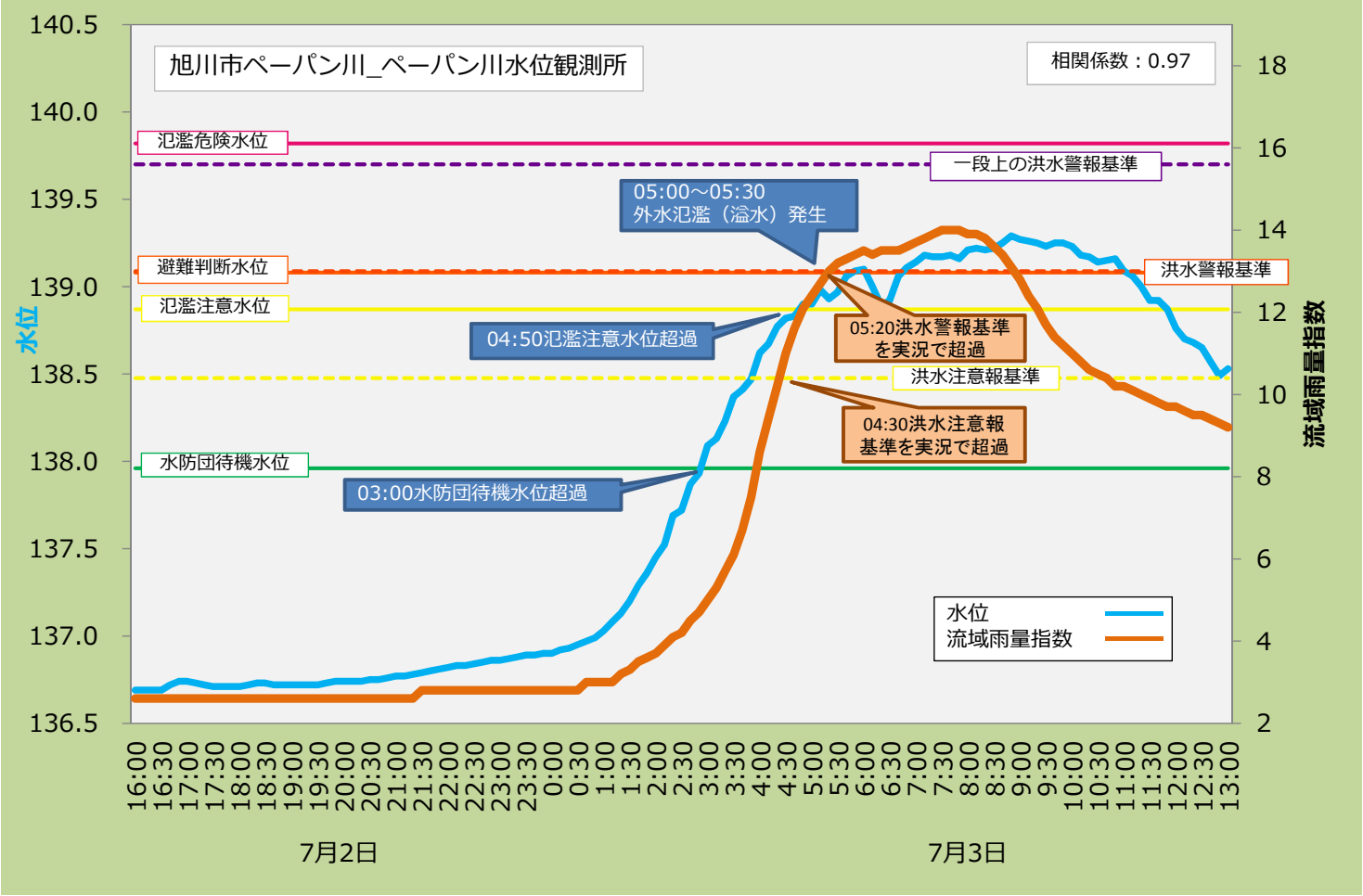
旭川市 パーパン川周辺の危険度分布

2時から3時までの1時間に「警戒」を表す赤や、「非常に危険」を表す薄紫が急激に広がっている。これは3時間先までに危険が迫っていることを示している。（この図では1時間毎だが、気象庁ホームページでは10分毎に図は変化する。）





# 水位観測所地点における水位と流域雨量指数を比較



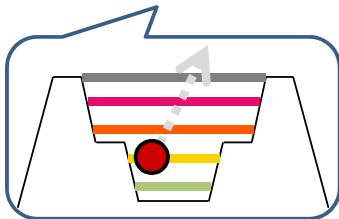
## まとめ

平成30年7月豪雨における旭川市 ペーパン川の外水氾濫（溢水）の状況と、「洪水警報の危険度分布」を比較したところ、ピンポイントに外水氾濫する箇所を適中させることは難しいが、旭川市のどの辺りで危険度が高まっているかを把握できた。水位計のない小河川は特に水位の上昇が早いため有効。

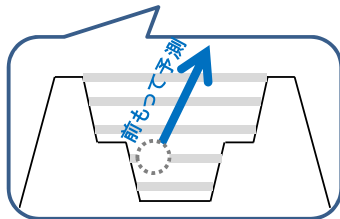
現地  
情報

予測  
情報

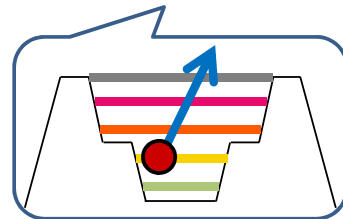
避難  
勧告



水位監視が最も重要。ただ、水位計・監視カメラからの情報では避難が間に合わない事例も。



「洪水警報の危険度分布」もこれ単独では現実感が不十分。



両者を組み合わせて納得感を伴った避難勧告に。

極めて危険を示す「濃い紫」が出現してからではすでに氾濫による冠水等で避難が困難なおそれも。このため、水位上昇の予測を示す「薄紫」が出現した時点で河川の現況を確認のうえ速やかに避難開始の判断を。

# 胆振東部地震における災害支援について

平成31年1月

旭川開発建設部 防災対策官

## 胆振東部地震概要

旭川開発建設部では管内で、震度4を観測した自治体があった場合、地震災害(注意体制)を発令し、各事務所等において、管理している各施設の臨時点検を行います。



平成30年9月6日3時7分発生

震源地:胆振地方中東部

北海道内の震度(震度6弱以上)

震度7 厚真町

震度6強 安平町、むかわ町

震度6弱 札幌市東区、千歳市、平取町、日高町

旭川開発建設部管内の震度

震度4 旭川市、富良野市、鷹栖町、当麻町、  
中富良野町、南富良野町、占冠村、剣淵町

震度3 士別市、名寄市、東神楽町、比布町、愛別町、  
東川町、美瑛町、上富良野町、和寒町、  
幌加内町

震度2 下川町、美深町、上川町、中川町

震度1 音威子府村

# 旭川開発建設部の災害体制

以下は、地震発生日の旭川開発建設部災害体制時系列です。



平成30年9月6日

3時07分 地震発生

3時08分 地震災害「注意体制」発令(管内最大震度4)

6時00分 その他(災害支援)「警戒体制」発令(自治体支援準備)

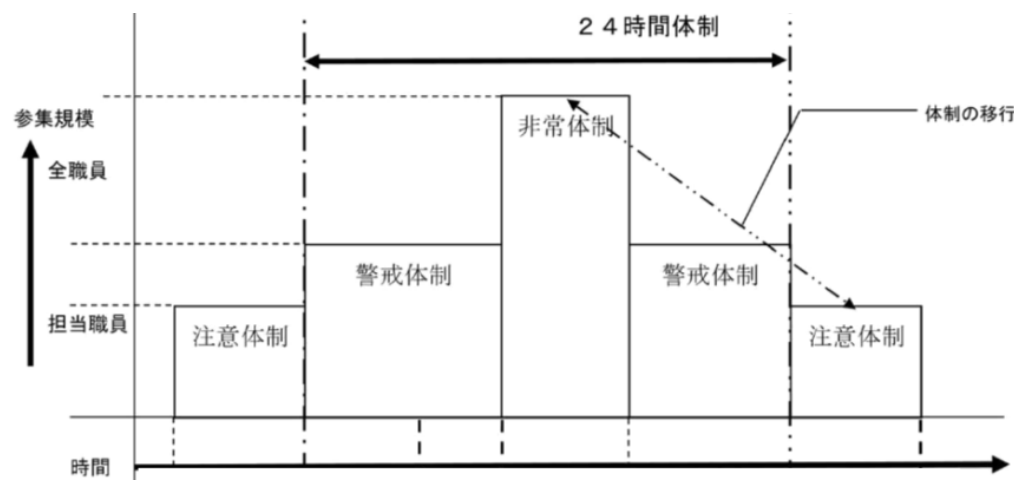
10時00分 応援対策本部設置(胆振東部被災地対応)

平成30年9月14日

14時00分 地震災害「注意体制」解除(当部管理施設点検完了)

平成30年12月28日

17時00分 その他(災害支援)「注意体制」に移行(TEC-FORCE派遣終了)

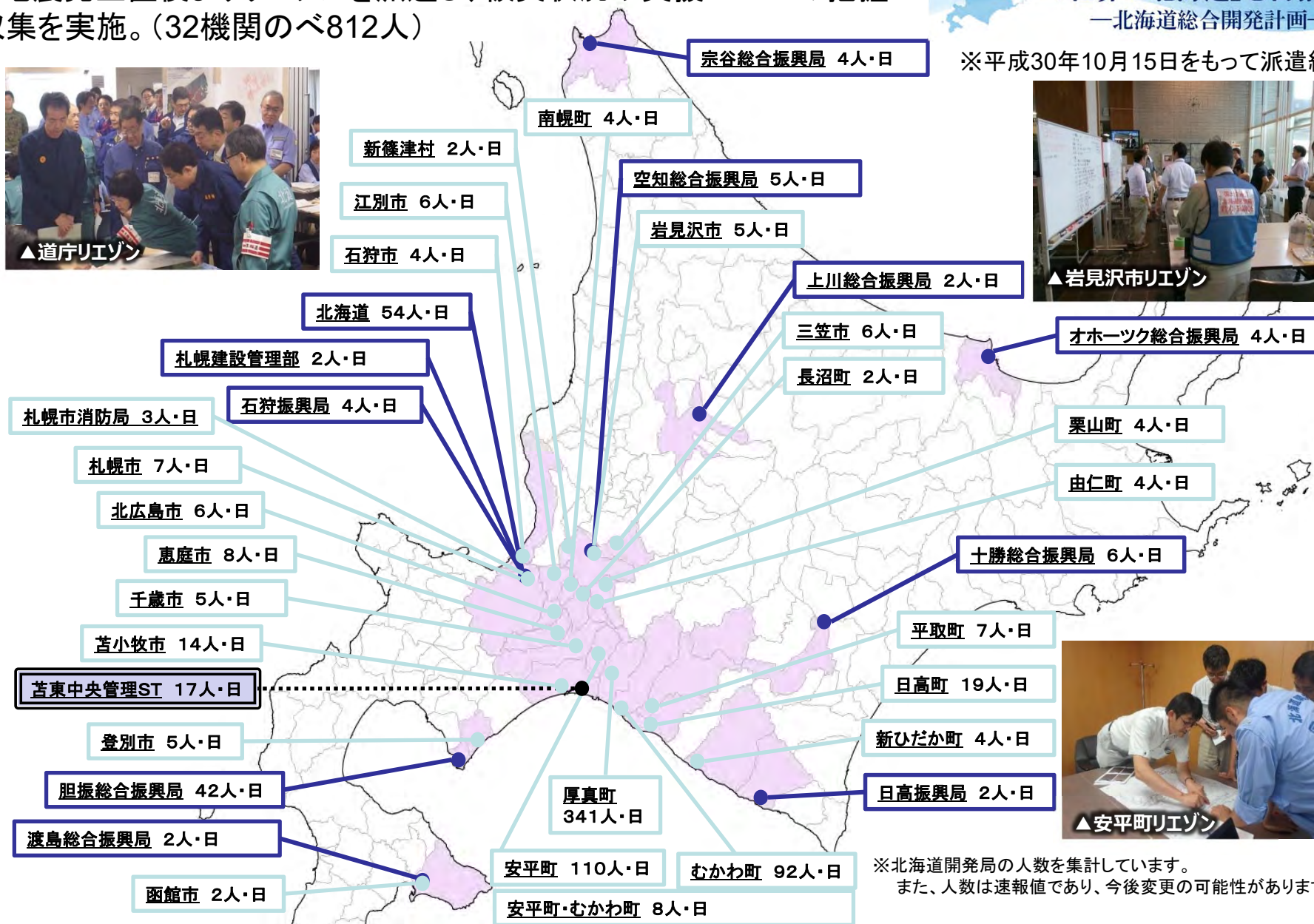
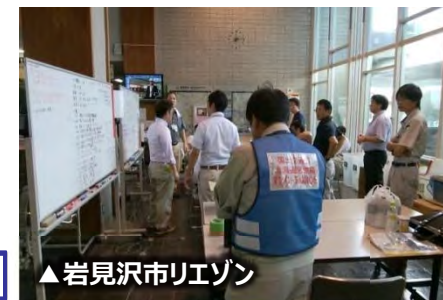


# TEC-FORCE派遣(リエゾン)箇所図

地震発生直後よりリエゾンを派遣し、被災状況や支援ニーズの把握・収集を実施。(32機関のべ812人)

「世界の北海道」を目指して  
—北海道総合開発計画—

※平成30年10月15日をもって派遣終了



※北海道開発局の人数を集計しています。  
また、人数は速報値であり、今後変更の可能性があります。

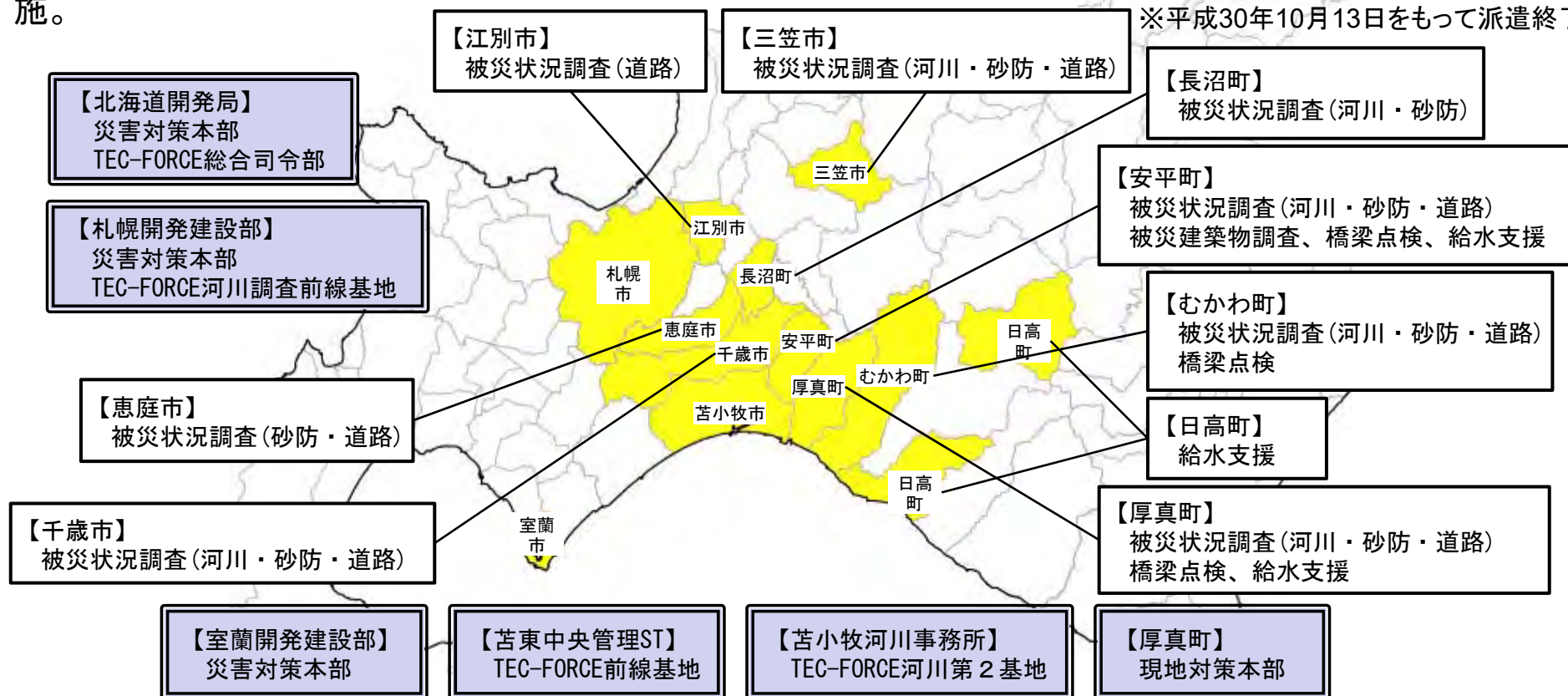


# TEC-FORCE派遣(リエゾン以外)箇所図

各地整(近畿・沖縄を除く7地整)からTEC-FORCE のべ1,887名が集結し、自治体(4市5町)所管施設の被災状況調査や給水支援等を実施。

「世界の北海道」を目指して  
—北海道総合開発計画—

※平成30年10月13日をもって派遣終了





旭川開発建設部管内での地震による被災は確認されませんでしたでしたが、停電(ブラックアウト)が全道的なことが判明し、長期化が予測されたことから、管内全自治体に対してのリエゾン派遣を派遣することは、人員装備を考慮すると実情不可能なため自治体情報が集まる上川総合振興局のみにリエゾンを派遣しました。

また、停電による断水対応のため、旭川市千代ヶ岡地区、東川町に散水車(給水装置付)を派遣しました。

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 9月6日     | リエゾン(上川総合振興局) 2名       |
| 9月6日～10日 | 東川町給水支援 散水車(給水装置付)1台   |
| 9月7日     | 旭川市千代ヶ岡地区 散水車(給水装置付)1台 |



9月6日 上川総合振興局



9月7日 旭川市千代ヶ岡



9月6日～ 東川町





各事務所においては、ブラックアウト(停電)対応として、ホットライン等を活用し、管轄自治体に発電機の貸出支援も行いました。10市町村、のべ22台発電機も使用用途に応じて規格がありますので、支援要請を行う場合は、電圧(100V,200V,400V)、容量(〇〇kVA,〇〇kW)、電灯コンセント用、モーター用、使用箇所などの情報もお願いします。

※可搬型(移動用)発電機で**10kW以上**のものは、電気事業法の自家用電気工作物として届出が必要となりますので、

自治体で【購入】等予定がある場合は、各自治体の電気主任技術者(委託含む)又は経済産業省北海道産業保安監督部に確認をお願いします。

レンタル発電機についても、使用者が届出をすることとなっています。



美瑛町浄水場(旭川河川事務所)



中川町避難所(名寄河川事務所)



美瑛町給水施設(旭川道路事務所)



士別市役所(士別道路事務所)

TEC-FORCE(国土交通省)の業務種別は、リエゾン、先遣班(総括班)、情報通信班、被災状況調査班、応急対策班に大別され、今回、旭川開発建設部としての派遣は、下記のとおりとなっており、のべ28名派遣しました。

全国(北海道開発局含む)のべ2,897名  
また、災害対策用機械等も派遣しています。



TEC-FORCE打ち合わせ状況

|               |             |                 |
|---------------|-------------|-----------------|
| 9月7日～11日(12日) | 被災状況調査班(砂防) | 2班8名(内、1班12日まで) |
|               | 被災状況調査班(道路) | 1班4名            |
| 9月8日～9日       | 情報調整班(電気通信) | 1班1名            |
| 9月12日～16日     | 被災状況調査班(砂防) | 1班4名            |
| 9月16日～22日     | ※大規模土砂対策班   | 1班2名            |
| 9月26日～10月2日   | ※大規模土砂対策班   | 1班2名            |
| 9月29日         | ※ヘリ調査班      | 1名              |
| 9月12日～13日     | 応急対策班(機械)   | 1班2名            |
| 9月15日～16日     | 応急対策班(機械)   | 1班2名            |



被災状況調査

# 派遣された災害対策用機械等

「世界の北海道」を目指して  
—北海道総合開発計画—

## 照明車（胆振東部地域）

発電機・照明装置を搭載しており、夜間復旧作業及び現場監視における照明作業を行う機械です。400m先でも新聞が読めるほどの明るさで、最も出動機会が多い機械です。



9月6日～28日 2台

## 衛星通信車（胆振東部）

速やかに災害現場へ出動し、通信確保及び情報収集・伝達を行う機械です。不感地帯がほとんど無く、日本国内のほぼ全域で通信を確保することが可能です。



9月8日～14日 1台

## 散水車（給水装置付）（管内、胆振東部地域）

道路の散水作業に使用する散水車に給水装置を搭載し、給水活動にも利用できる構造となっているほか、各種施設の給水タンク等に水を圧送することが可能です。



9月11日～18日 1台  
9月11日～19日 1台

## 水陸両用車（胆振東部地域）

ゴム製無限軌道を備えており、一般車両では走行が困難な岩山、沼地、冠水路、雪上などの場所や過酷な気象条件のもとでも走行が可能です。



9月15日～22日 1台





# 平成30年北海道胆振東部地震 に係る復旧・復興等の状況



平成30年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」は、北海道がかつて経験したことがない「震度7」を観測し、各地に甚大な被害をもたらしました。

これは、北海道胆振東部地震からの一日も早い復旧・復興に向けた北海道開発局における活動記録です。



国土交通省 北海道開発局  
「北海道開発局 復興・強靱化推進本部」



# 目次

## 地震発生

|                        |   |
|------------------------|---|
| ◆北海道内で史上初の観測 震度7 ..... | 1 |
| ◆大規模崩落 明治以降最大 .....    | 2 |
| ◆激震の痕跡 .....           | 3 |
| ◆生産空間への被害 .....        | 4 |
| ◆道路に段差、堤防に亀裂 .....     | 5 |

## 緊急対応

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| ◆防災ヘリから被災調査 .....              | 6  |
| ◆早急に救援ルートを確認 道路啓開 .....        | 7  |
| ◆迅速な緊急応急により3日後に通行止め解除 .....    | 8  |
| ◆地域の建設業者が昼夜を問わず緊急復旧に取り組む ..... | 9  |
| ◆安全を確保し最大限の緊急復旧を実施 .....       | 10 |
| ◆24時間体制で緊急復旧、節電の取組 .....       | 11 |
| ◆斜面崩壊で発生した大規模な河道閉塞 .....       | 12 |

## 被災地支援

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| ◆被災地に寄り添う支援 .....                 | 13 |
| ◆開発局職員が地元に着したサポートを展開 .....        | 14 |
| ◆TEC-FORCEが全国から被災地に集結 .....       | 15 |
| ◆道外からも緊急救援 .....                  | 16 |
| ◆被災地を支援する「道の駅」「給水活動」の取組 .....     | 17 |
| ◆緊急対応「タイムラインの取組」「橋梁の緊急点検支援」 ..... | 18 |
| ◆専門家による高度な技術支援 .....              | 19 |

## 復旧・復興に向けて

|                              |    |
|------------------------------|----|
| ◆復旧・復興・強靱化に向けて .....         | 20 |
| ◆強靱化推進 二次災害防止に向けた砂防の取組 ..... | 21 |
| ◆産業支援 来年の営農用水確保に向けた取組 .....  | 22 |
| ◆産業支援 海外輸出を通じた復興支援の取組 .....  | 23 |
| ◆観光支援 北海道を元気に .....          | 24 |
| ◆観光支援 北海道観光の復興に向けて .....     | 25 |



9月6日(木)03時07分

地震発生

北海道内で史上初の観測

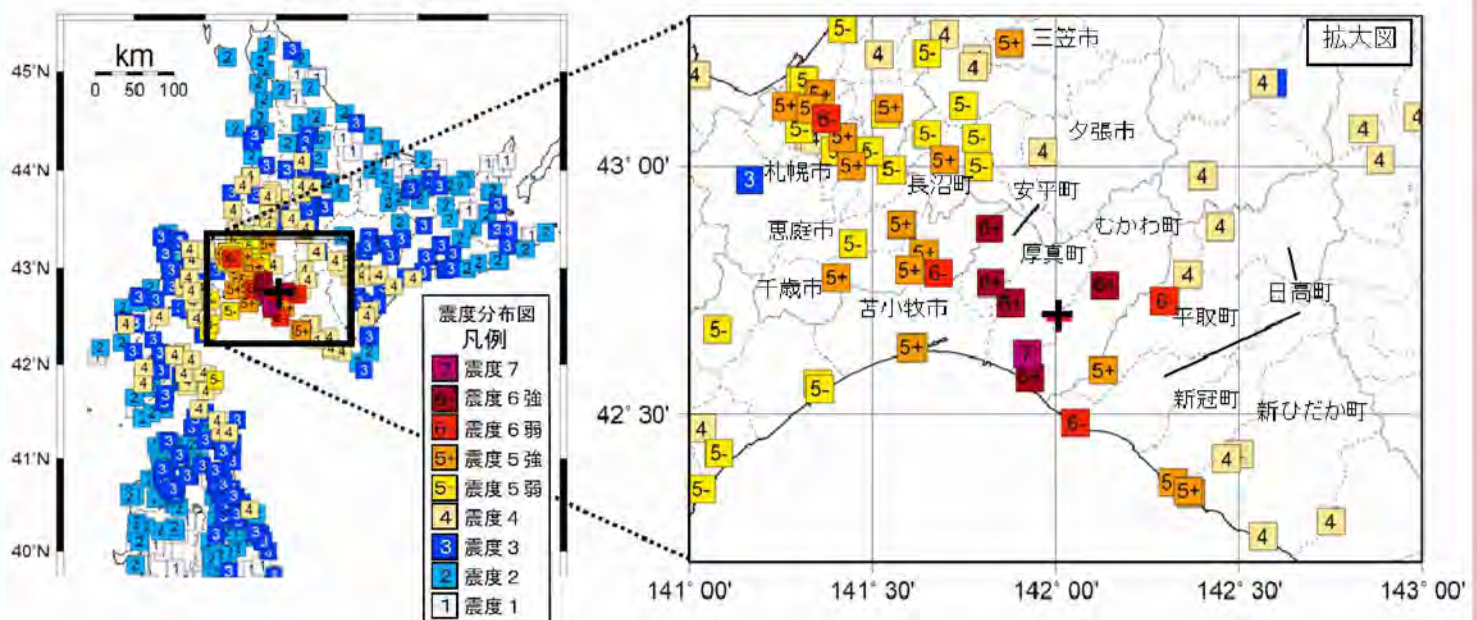
# 震度7を観測

広範囲にわたり激しい揺れが発生

9月6日の地震(M6.7)の発生以降、11月15日09時現在の地震の回数は、最大震度7が1回、最大震度5弱が2回、最大震度4が21回、最大震度3が35回、最大震度2が83回、最大震度1が179回、計321回になっています。

この一連の地震活動により、胆振東部地方を中心に各地で甚大な被害が発生しました。

## 震度分布図



## 地震概要

発生日時 平成30年09月06日(木)03時07分  
震源 胆振地方中東部、深さ37km(暫定値)  
規模 マグニチュード6.7(暫定値)  
地震名称 平成30年北海道胆振東部地震  
主な震度 震度7 北海道厚真町  
震度6強 北海道安平町、北海道むかわ町  
震度6弱 北海道千歳市、北海道日高町、北海道平取町、北海道札幌市東区  
その他、北海道から中部地方の一部にかけて震度5強～1を観測。



地震発生

# 大規模崩落

3,000万 $\text{m}^3$ の土砂が一気に崩落  
※速報値

崩壊面積13.4 $\text{km}^2$ (札幌ドーム約440個)  
平成16年新潟県中越地震(既往2位)の約1.2倍

## 明治以降 最大

厚真町高丘地区



厚真町富里地区





地震発生

前例の無い振動は、  
各地に甚大な被害をもたらした

この地震により、死者41人、負傷者750人、住家全壊433棟、住家半壊1,425棟などの被害が生じた(11月19日現在、北海道総務部危機対策課資料より)。

震度7と震源地に近い厚真町、安平町、むかわ町を中心に、最大時には1万6千人以上の方々が避難生活を強いられることとなりました。

# 激震の痕跡



ブラックアウトにより、  
生活に支障が生じた

地震発生直後に起きた北海道全域の停電「ブラックアウト」により、断水や交通機能の麻痺なども相まって道民生活や経済活動にも大きな支障が生じました。



地震発生

震源地に近い勇払東部地区(厚真町、むかわ町)では、厚真ダムを含め地区全体にわたり農業水利施設等に甚大な被害が生じました。

# 生産空間への被害

日本の食料供給基地 農林水産関係の被害状況

◆被害額は1,139億円

※ 農林水産省 (11/16時点)

- ①農地・農業用施設への土砂堆積や損傷(580億円)
- ②林地の大規模崩壊や林道の損傷(474億円)
- ③農作物等の被害(85億円)

## 苫小牧港 液状化

## 沈下

緊急点検の結果、苫小牧港各所で液状化やそれによる沈下の発生を確認。

物流や支援活動への影響を最小限にとどめるため、国際コンテナターミナルなどの応急復旧や、支援船の入港岸壁の調整など早期の対応が求められました。





地震発生

段差30cm

路面が沈下し段差が発生

# 道路に段差

地震発生直後から、国が管理する日高自動車道(沼ノ端西IC～日高厚賀IC)を全面通行止めとし、地震時点検を実施。その点検結果により路面変状による段差等が確認されました。

また、国が管理する鵜川水系鵜川においても、河川堤防の縦・横断亀裂など24か所で被災が確認され、次の出水に備え、一刻も早い緊急復旧工事が求められました。

(その後、10月5日の余震で1箇所の新たに確認されています。)



堤防の亀裂や  
沈下が発生

# 堤防に亀裂



緊急対応

# 防災ヘリから 被災調査



## 防災ヘリで被災状況を調査し、リアルタイムで情報を提供

被災状況の全容を把握し早期復旧の参考にするため、北海道開発局保有の「ほっかい号」により、立入困難な大規模土砂崩落の被災現場等を上空から調査。また、可搬型の衛星設備(ku-sat)を設置し、被災した自治体へリアルタイムでの被災状況映像を提供するなど迅速な対応に役立てました。





# 緊急復旧を実施するため

緊急対応

## 早急に救援ルートを確認



厚真町道 幌里本線

### 被災からおおむね5日以内に、地域の最低限のアクセスを確保

地震発生後、被災自治体と北海道開発局が調整し、緊急車両を通行可能とするために必要最低限の倒木処理や路面段差の解消などを早急に行う「道路啓開」を建設業者の協力を得て実行。救急車や警察、自衛隊などの緊急車両が通行可能になりました。

## 道路啓開





緊急対応

# 迅速な緊急復旧 により3日後に通行止め解除



E63日高自動車道の緊急復旧工事



▲緊急車両の通行状況

早急な点検を行い9月6日夜には緊急車両の通行が可能と判断。被災地の復旧支援に貢献。

また、被災直後から、路面変状の緊急復旧計画を迅速に立案し、9月7日の16時30分には、段階的な通行止め解除予定について報道発表し、昼夜にわたり緊急復旧工事を実施し、計画どおりに通行止めを解除しました。

▲段階的通行止め解除予定の公表



# 地域の建設業者が

緊急対応

## 昼夜を問わず

## 緊急復旧に取り組む

### 河道閉塞した厚真川の緊急復旧作業

災害発生直後から被害の拡大を防ぐため、重機による流木や土砂の撤去など、過酷な災害現場の中で昼夜を問わず緊急復旧に取り組みました。建設業者は、地域の守り手としての重要な役割を担っています。





緊急対応

# 安全を確保し 最大限の

# 緊急復旧を実施

関係機関との連携により迅速な復旧作業に取り組む

厚真ダムに隣接する山腹が崩壊し、余水吐（大雨時に洪水を流す水路）に倒木や土砂が流入（最大で水路断面の半分程度）。

自衛隊の協力も得て、余震に気を付けながら、水位計設置、倒木・土砂除去を実施しました。

余水吐への流入土砂撤去状況



被災直後の余水吐



緊急復旧後





# 24時間体制で 緊急復旧

緊急対応



工事監督



## 次の台風を前に、河川堤防の緊急復旧を完了

地震による河川堤防の変状が確認された鵠川水系鵠川では変状が大きい4か所において、一刻も早い応急対策の完了を目指して、建設業者の協力を得ながら24時間体制で緊急的な復旧工事が進められ、おおよそ6日間で全ての工事を完了させました。

北海道開発局は、組織を挙げて節電に取り組みました

## 節電の取組

平常時



北海道胆振東部地震による発電施設の損傷を原因とする電力供給能力の低下を受け、北海道開発局は、管理する道路やトンネルの照明減灯の工夫、全道に立地する庁舎の節電の徹底等、組織を挙げて節電に取り組みました。



緊急対応

# 斜面崩壊で 発生した大規模な

北海道勇払郡厚真町日高幌内川  
(H30.9.26)

閉塞部  
約1,100m

斜面崩壊部

湛水

日高幌内川

# 河道閉塞

水位計、カメラを設置し監視・観測体制を構築

日高幌内川では、右岸側の尾根部(幅約400m)が地震により滑動し、約1,100mに渡って河川を閉塞させる大規模な河道閉塞が発生したため、緊急的に監視・観測体制を構築しました。



水位観測ブイをヘリで運搬



水位観測ブイの設置



監視カメラの設置



# 被災地に

被災地  
支援

## 寄り添う支援

### 幹部職員の派遣で被災自治体の技術支援を強化

被災自治体では、多岐に渡る災害対応が求められる一方で、技術職員の人数が限られています。国土交通省では応急対策や復旧に向けた助言を行い、現地で活動するTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)を統括するため、本省及び開発局の幹部職員を直ちに被災自治体に派遣し、首長等へ被災状況の報告や応急復旧に向けた技術支援を行いました。



災害対策関係機関調整会議  
(厚真町長室)



国土交通大臣による被災地視察



被災地  
支援

# 開発局職員が 地元に着した

## サポートを展開

リエゾン派遣

災害発生直後からリエゾン（現地情報連絡員）を被災した自治体の災害対策本部に派遣。被災状況や必要な支援内容等の情報把握、北海道開発局との連絡・調整を行いました。災害発生後、40日間で延べ約800人を派遣しました。

### 水土里（みどり）災害派遣隊派遣



北海道開発局農業部門では、職員により構成される水土里（みどり）災害派遣隊を被災地に派遣。自治体に代わり、農地・農業水利施設の被害状況調査及び災害復旧事業の技術的指導の支援を実施しています。

9月6日活動開始 71日間 延べ人数 1,021人（11月11日時点）



# TEC-FORCEが

被災地  
支援

## 全国から被災地に 集結延べ2,897名

### 災害対応のスペシャリストが全力で被災地を支援に

被災状況の全容把握や被災地の早期復旧に向けた技術的支援を行うため、全国からTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)が被災地に集結。

災害発生直後から東北・関東・北陸・中部・中国・四国・九州地方整備局等の職員延べ2,897人が派遣され、被災地の早期復旧に取り組みました。



厚真町町道被災箇所点検  
(関東地方整備局)



調査結果取りまとめ(東北地方整備局)



土砂災害危険箇所点検  
(北陸地方整備局)



調査結果報告書手交式(厚真町)  
-北海道開発局、東北・関東・北陸・中部地方整備局



被災地  
支援

# 道外からも



## 緊急救援

苫小牧港 支援物資の荷下ろし

### 北陸地方整備局の船「白山」が救 援物資の運搬や入浴支援を実施

はくさん

被災地支援のため北陸地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「白山」が9月8日に苫小牧港に支援物資を運搬するとともに、同港において入浴・洗濯・給水支援等を9月16日までの9日間にわたり実施しました。



### 関東地方整備局の備蓄物資を 民間船舶「はくおう」により輸送

関東地方整備局により川崎港東扇島地区基幹的広域防災拠点等に備蓄されていた支援物資が防衛省が契約している民間船舶「はくおう」により輸送され、被災地に提供されました。





# 被災地を支援する 道の駅



道の駅「むかわ四季の館」

「道の駅」駐車場  
車中避難者へ毛布を提供

## 避難者を受け入れ、防災拠点として被災地を支援

道の駅「むかわ四季の館」は、地域防災計画における避難所として位置づけられています。北海道胆振東部地震では道内全域が停電しましたが、非常用発電機によりトイレ、研修室、携帯電話充電サービス等が利用可能であったため、避難所として開放し、被災地域の住民（最大時270人）が利用しました。※9/6～11/11まで 延べ 5,431人が避難所として活用

# 給水活動



給水支援（厚真町）

9月6日から10月13日までの間、2市4町へ延べ185台の散水車（給水機能付き）により給水支援を実施しました。



被災地  
支援

# 厚真地区緊急対応

## タイムラインの取組

地震発生直後、厚真町において、関係機関と連携し、「台風・前線性の降雨等に伴う洪水・土砂災害等」を対象としたタイムラインの検討に着手。北上する台風第24号に対し、9月29日より緊急的にタイムラインを立ち上げました。

## 被災自治体橋梁の 緊急点検支援

### 橋梁緊急点検支援(安平町)

地震発生直後から、橋梁点検車により被災自治体(安平町、むかわ町、厚真町)の橋梁を緊急的に点検。計24か所の橋梁において、安全な交通を確保しました。



被災地  
支援

液状化被害に関する  
専門家チームの派遣  
(札幌市清田区里塚)



# 専門家による 高度な技術支援

港湾災害専門家による苫小牧港被災施設の現地調査実施  
(苫小牧港国際コンテナターミナル等被災施設)





復旧・復興  
に向けて

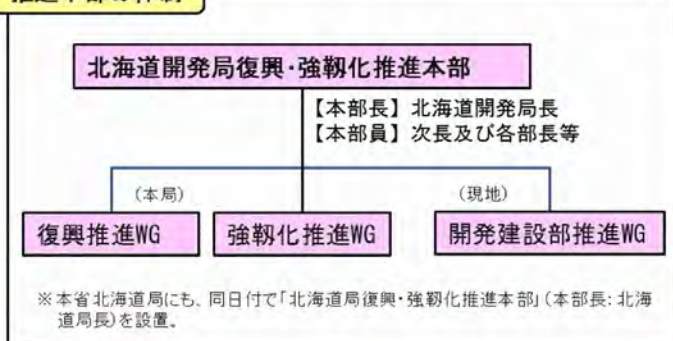
# 復旧・復興

## 強靱化に向けて

### 「北海道開発局復興・強靱化推進本部」を設置

北海道開発局では、平成30年北海道胆振東部地震の発生(9月6日)から1か月が経過した10月5日付で、第8期北海道総合開発計画の着実な推進及び復旧・復興並びに国土強靱化を推進するため、「北海道開発局復興・強靱化推進本部」を設置しました。

#### 推進本部の体制



### 北海道の復旧・復興及び国土強靱化を推進します

#### 当面の取組

- ①被災した地域の復旧・復興状況の把握、対応及び調整
- ②被災による農林水産業や観光等の産業に関する全道及び全国への影響の把握、対応及び調整
- ③食と観光を担う生産空間の維持・発展など北海道型地域構造の保持・形成及び強靱な北海道の実現の推進
- ④「重要インフラの緊急点検」への対応

※砂防事業による国土強靱化の推進、農業、港湾事業及び観光による産業支援の具体的な取組は次ページ(P21)以降に掲載しています。



# 二次災害防止 に向けた砂防の取組

復旧・復興  
に向けて  
強靱化推進



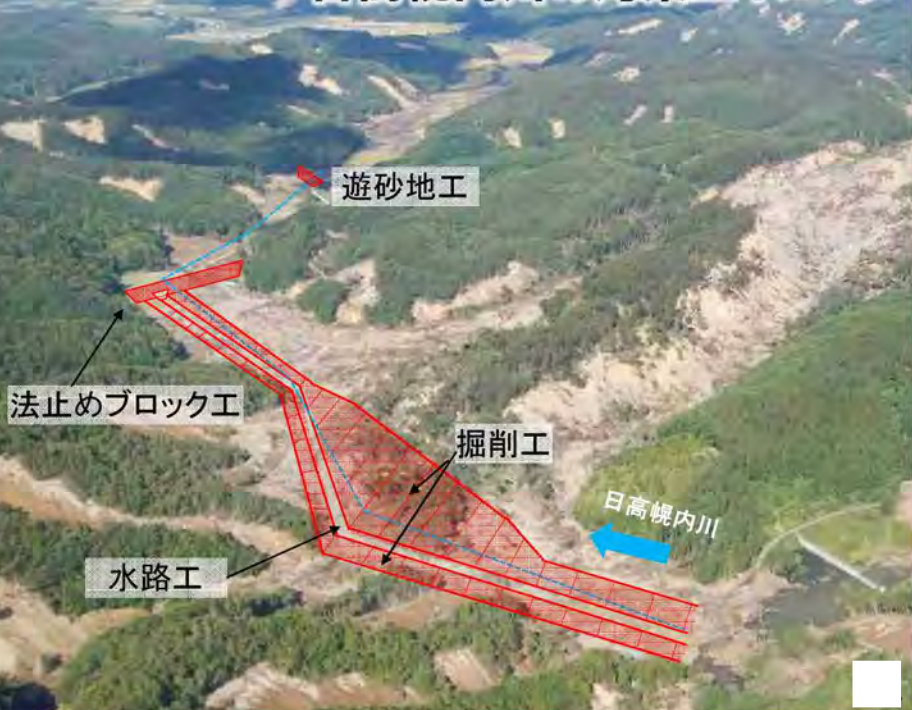
## 日高幌内川、チケッペ川、東和川の3河川を国直轄で推進

北海道勇払郡厚真町を中心に発生した土砂災害に対し、新たに国直轄で土砂災害対策を推進することから、その体制を確保するため、「厚真川水系土砂災害復旧事業所」を設置。

大規模な河道閉塞が発生した日高幌内川における対策を推進するとともに、河道内に堆積した不安定土砂等の再移動による二次災害を防ぐための緊急的な砂防工事を実施します。



## 日高幌内川の対策イメージ





復旧・復興  
に向けて

産業支援

## 来年の営農用水 確保に向けた取組

厚真町では、国が造成したパイプラインで  
管の継ぎ目が離脱したり浮上するなどして  
壊滅的な被害が発生しました。

## 生産空間を守る

来年以降の営農に必要な用水確保のために  
既存施設を利用した用水手当の検討及び  
地元説明会を開催しています。  
一部については工事に着手しています。



現況施設機能確認調査



【海上小口混載コンテナへの積み込みイメージ】

復旧・復興  
に向けて  
産業支援

# 海外輸出を通じた 復興支援の取組

北海道開発局では、被災地である東胆振地域の農産物を海上コンテナによる小口混載便輸送や航空便により苫小牧港から台湾へ輸出。

台湾の北海道アンテナショップにて、被災地の「食」と「観光」のPRを通じた復興支援を行います。



自治体のパンフレットやポスターを展示・配布

被災3町のパンフレットやポスターを展示・配布して、「観光」をPRします。

農産物の試食・配布を通じて、「食」をPRします。



農産物の試食・配布を実施

※各種写真は実施予定先の店舗からご提供頂いた取組のイメージ写真です

※実施予定先「北海道新発見ファクトリー(台湾麗宝モール内)」(運営(株)タクミナフード)



復旧・復興  
に向けて  
観光支援

# 北海道を元気に

北海道は実りの秋を迎えました。  
皆様の御来道を心より歓迎申し上げます。

錦仙峡(滝上溪谷)

北海道では、現在、被災地域の復旧・復興を目指しているところですが、  
震源地から離れた大部分の地域では、  
観光客の受入に全く支障がない状況です。

北海道開発局では、関係する多様なツール(北海道開発局、シーニックバイウェイ北海道、かわたびほっかいどう、わが村は美しくー北海道運動等のホームページやSNS等)を活用して観光情報等の国内外への発信に取り組んでいます。

安心して北海道観光を  
楽しんでいただけます。

美幌峠から見た屈斜路湖



復旧・復興  
に向けて

観光支援

# 北海道観光の 復興に向けて

シーニックバイウェイ北海道と連携し、東京・池袋で行われた「北海道まるごとフェアinサンシャインシティ」の観光PRブースにおいて、道内ほぼすべての地域で観光客の受入に支障がないことの動画等での発信や、「秀逸な道展」として道内の魅力的な道路景観や食のPRを行いました。

**北海道開発局は、地域のみなさまと一緒に、国内外に向けて  
北海道の元気を発信し、北海道観光の復興に取り組んでいます。**

元気です  
北海道

We are GENKI Hokkaido



Welcome!  
HOKKAIDO,  
Japan.

北海道銀行との連携により、北海道内各地域からの動画(収集協力:シーニックバイウェイ北海道・北海道運輸局)を北海道銀行及び北陸銀行の道内外の約300店舗で発信しています。

外国人ドライブ観光客が多く利用する道の駅等10か所に「元気です 北海道」のロゴが入ったSNSパネルを設置し、国内外の旅行者による情報発信を促進しています。

シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺二セコルート  
北海道千歳市支笏湖温泉

元気です  
北海道



支笏湖は元気です

facebook

Michi-no-Eki Utoro Shirietoku

元気です北海道／Welcome! HOKKAIDO, Japan.

※Hokkaido: 元気です北海道、支笏洞爺二セコルート、  
※シーニックバイウェイ北海道、支笏洞爺二セコルート、  
※Michi-no-Eki Utoro Shirietoku、支笏洞爺二セコルート



Hokkaido 179 cities, towns and villages

元気です北海道

WELCOME! HOKKAIDO, Japan.



平成30年北海道胆振東部地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。



平成30年北海道胆振東部地震に伴う災害対応状況

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/saigai/splaat000001e1uy.html>



札幌第1合同庁舎

住所 〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目

電話(011)709-2311

北海道開発局ホームページ

<http://www.hkd.mlit.go.jp/>

